

# 市民団体との協働を目指して

～宮古市災害ボランティアセンターの取組みを通して～

社会福祉法人宮古市社会福祉協議会

宮古市生活復興支援センター

有原 領一

# 宮古市災害ボランティアセンター開設

3月13日災害ボランティアセンターを宮古市総合福祉センター内に開設。

開設時の職員は5名。

マニュアル、様式がなくインターネットも使用不可。  
職員で、運営想定をしながら事務所・様式を作成。

→その後、ブロック派遣により2週間後に北海道社会福祉協議会、静岡県社会福祉協議会職員が派遣される。

# 宮古市災害ボランティアセンターの運営

## 災害ボランティアセンター運営体制

ボランティア活動班、ニーズ班、マッチング班、  
仮設住宅班、イベント班、資金相談班

## 運営協力団体

岩手県・北海道・静岡県社会福祉協議会  
災害支援プロジェクト、(株)プロミス・(株)GSK  
陸中宮古青年会議所、宮古災害復興支援活動チームM. A. D  
市内個人ボランティア

# 災害ボランティアセンターの担い手

## 宮古市内の災害ボランティアセンター

### ●宮古災害ボランティアセンター

（宮古市社会福祉協議会、宮古災害復興支援活動支援チームM. A. D）

### ●盛岡Y M C A宮古ボランティアセンター

なぜ、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを運営するのか？

- ・ 通常からボランティアセンターを運営している
- ・ 市町村防災計画に明記されている
- ・ 長期的に支援が可能
- ・ 住民の認知度、安心感

# なぜ連携が必要だったのか？

災害ボランティアセンターは全国からの支援を  
コーディネートすることが役割

「支援をしたい」思いと

「支援が必要な人」をつなぐ

思いをつなぐことが重要となる

一つの機関では、効果的なコーディネーションが不可能。

それぞれの機関が持つ専門性をつなぎ、支援を必要とする  
方々へ支援を届ける必要がある。

# 様々なセクターとの連携①

## 企業との連携

ボランティアセンター運営に協力

- (株)プロミス
- (株)GSK
- 全国生活協同組合連合会（災害支援プロジェクト）

＊社協だけでは、解決できない運営上の課題をそれぞれが通常業務で持つノウハウを持ち込むことで、運営が飛躍的に改善された。

# 様々なセクターとの連携②

## NPO・NGOとの連携

### 【例】仮設住宅支援

#### World vision japanとの連携

- 仮設住宅への衣類配布
- ベンチ、パラソルセットの設置
- 仮設のトリセツ配布
- 仮設住宅送迎サービスの実施
- 住民交流事業の実施（YMCAとの連携）
- EARTH MIYAKO支援
- 柏崎市とのつながり

# 様々なセクターとの連携③

## NPO・NGOとの連携

### 【例】みなし仮設住宅支援

ケア・インターナショナル、SAVE IWATE、連合岩手、行政との連携

### みなし仮設住宅への物資支援

みなし仮設住宅への支援が当センターとしての課題

⇒当センターでの課題を各団体とつながることで支援につなげることが可能になった

# 市民団体との連携・育成①

## 市民団体の誕生

災害ボランティアセンターで大切にしてきたこと

### ●地元リーダーの育成

地元で継続的に活動出来るリーダーが必要！

→応急活動期は多くのボランティアさんが

しかし、多くの力で生活の場を確保する時期は短い  
大切なのは、被災者が生活を再建するための活動。  
生活支援を継続して活動していくこと。

そのためには、地元ボランティアとの連携が不可欠

# 市民団体との連携・育成②

そもそも、宮古市は市民活動が活発ではなかった

震災により、これまでボランティア・市民活動に参加することのなかった人たちが、一つの課題に対して参加。

これにより、市民がボランティア活動に触れ、自分たちの街をよりよい街にしたいとの思いが集まった。

この思いを、つなげていくことが重要！

# 市民団体との連携・育成③

宮古市生活復興支援センター開設

9月13日 「宮古市災害ボランティアセンター」から  
「宮古市生活復興支援センター」へ名称変更

災害ボランティアセンターをきっかけに生まれた団体

**「宮古災害復興支援活動チームM. A. D」**

**「ERATH MIYAKO」**

# 市民団体との連携・育成④

「宮古災害復興支援活動チームM. A. D」との連携

- 生活復興支援センター運営
- 在宅避難者へのニーズ調査
- 子どもの支援（子どもパーク、学習支援…）
- 仮設住宅送迎サービス
- 市民ボランティアの確保（講座、出前ワークショップ）
- 広報誌の発行、WEB発信
- ボランティアプログラムの見直し
- 季節イベントの実施
- スタッフ研修
- 福祉教育への取組み

# 連携の課題①

## ● 思いの共感

震災後は皆同じ想いと方向

しかし、時が経つにつれて手段や役割の違いから…

## ● 地元主体の理解

直後は、地元だけの活動は困難

しかし、いつかは支援終了。その後…。

## ● 市民団体の運営

直後は、テーマは一つ。

しかし、今後この力をいかにつなげるか…。

# 連携の課題②

## 市民団体との連携課題

- 運営体制の構築

運営スタッフ、資金、場の確保

- 被災者支援から市民生活への支援活動の転換

住民のニーズに合った活動への転換

- 役割の明確化

団体の自主性を生かし自立した団体として相互に目的や役割を理解しながら…